



Switzerland Homestay

実施報告書

ホームページバージョン





Support Our Kids のプログラムで、2019年と2020年に2組の東北地方の学生達がスイスでホームステイを行うという素晴らしいニュースが発表されました。

スイスは、国際オリンピック委員会および国際赤十字・赤新月社連盟の本拠地です。

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催にあたり、在日スイス大使館は、スイスと日本の人道的活動への貢献に力を入れて行きたいと思えます。

両国は、人道的活動において、重要な役割を担っており、更生と社会的包摂に特に重きを置いています。更生と社会的包摂は、復興と平和促進活動において不可欠な構成要素です。

“パートナーシップ”という概念は、戦争や人災、自然災害からの被害を軽減する為の全国的、国際的な努力には欠かせません。Support Our Kids (以下SOK)は、長期的に更生、復興、平和を促進すべく総力を結集して取り組んでいる例の最たるものです。

SOKの青年訪問団は、ローザンヌにある国際オリンピック委員会本部を訪れる予定です。2020年の1月には、ローザンヌ市が2020年冬季ユースオリンピックを開催します。ローザンヌ市は、2020年東京オリンピック・パラリンピックが開催される日本からの訪問団を迎えることを楽しみにしています。

ジュネーブでは、国際赤十字・赤新月社連盟の本部および国際赤十字・赤新月博物館を訪れる予定です。

1863年の赤十字国際委員会の新設は、国際赤十字・赤新月運動発展の基礎となり、以来、世界中の人道的活動の中心的役割を果たしています。

2019年に国際赤十字・赤新月社連盟が創立100周年を迎えるにあたり、在日スイス大使館は、連盟の創立メンバーであり、世界で最も重要な国内組織の一つである日本赤十字社に特別な敬意を払いたいと思えます。「赤十字」というスイス理念は、日本で素晴らしいかたちで展開されています。

最後に、2019年と2020年に向けて、Support Our Kidsの取り組みの成功をお祈りいたします。

スイス大使館 ジャン＝フランソワ・パロ大使

2018年11月

Orientation

事前研修 in 仙台

日時： 2019年2月3日(日) 10:00-16:00

会場： 東北福祉大学仙台駅東口キャンパス「未来の杜」

【ご来賓】

環境省 東北地方環境事務所長 小沢晴司様
日本赤十字社 事業局国際部企画課長 大山 啓都様
伊藤園 T2020推進部 部長 三浦悟様
伊藤園 T2020推進部 武田由美様
伊藤園 T2020推進部 鈴木麻季子様

PROGRAM

1. Support Our Kidsについて 磯和樹（事務局長）
2. 帰国後の活動 新山明美（東北事務局長）
3. 復興アンバサダー自己紹介
4. プログラムについて
5. SOK OB代表 小田和樹さん（2015 SOKポーランド・スイス / 筑波大学）
6. 講義「赤十字について」 大山 啓都氏（日本赤十字社 事業局国際部企画課長）
7. ワークショップ 「日本文化 お茶のこころ」 武田 由美氏（伊藤園 T2020推進部）
8. 学生スピーチ① 「福島の復興と現状」 高野圭太郎さん（中2 / 福島県福島市）
9. 学生スピーチ② 「復興と人道支援」 佐々木響さん（高1 / 福島県福島市）
10. 学生スピーチ③ 「復興のまちづくりへのビジョン」 土佐海斗さん（高1 / 宮城県塩竈市）
11. 学生スピーチ④ 「様々なボランティア活動を通して」 雁部みゅうさん（高3 / 宮城県大崎市）
12. 学生スピーチ⑤ 「人のつながりと復興」 佐藤葉月さん（高2 / 岩手県久慈市）
13. 講義「福島の環境回復の状況」 小沢晴司氏（環境省 東北地方環境事務所長）
14. 震災プレゼンテーション準備
15. 今後の予定





Doors to Switzerland Japan 2020

“Doors to Switzerland – Japan 2020”
スイスへのとびら レセプション

日時：2019年2月13日(水) 18:30
会場：スイス大使公邸

スイス大使館主催のレセプションへご招待していただきました。

スイスへのとびら-Japan 2020

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会期間中に渋谷に開設されるスイス・ハウス に向けて展開する在日スイス大使館のコミュニケーション・プログラム。

ディスカバリー・イノベーション・共生社会というテーマの下、これからスイス・ハウスの開設に向かう18カ月間にわたるイベントや取り組みを展開するプログラムです。

- ディスカバリー

「スイス・グランドツアー in Japan」と題されたデジタル・マップを中心に構成され、マップを通して、日本各地に点在するスイスと縁のある場所をわかりやすくお伝えします。ホストタウン、姉妹友好提携都市・鉄道や歴史的な建造物などが、モバイル・ウェブサイト（スイス・グランドツアー in Japan）上でご覧いただけます。また、「スイス・グランドツアー in Japan」は、日本各地のパートナーとのコラボレーションにより企画されるスイス・フェア、セミナー、展覧会といったイベントからも形成されるものです。

- イノベーション

テクノロジー、建築、デザイン、VR、デジタル・アートの分野におけるプロジェクトを紹介するイノベーションの柱では、スイスと、スイスのクリエイティブ・エコノミーのシーンにおいて、若さに溢れた都会的な視点をご紹介します。

- 共生社会

サイバスロン、日本赤十字社、NPO法人Support Our Kids、大分国際車いすマラソン、福島市といったパートナーと共に、社会的包容力と長期的復興を促進する人道支援の伝統と多様性を持つ国としてのスイスに、光を当てます。



Program

18:30 Doors open

19:00 Welcome speech by
Ambassador Jean-François Paroz

19:05 Presentation of the House of Switzerland
Japan 2020 by Ambassador Nicolas Bideau,
Head of Presence Switzerland

19:15 Presentation of the «Doors to Switzerland –
Japan 2020» program and the «Grand Tour
of Switzerland in Japan» by Mr. Jonas Pulver,
Head of Culture and Public Affairs

19:25 Address by H.E. Mr. Yoshitaka Sakurada,
Minister for the Tokyo Olympic and
Paralympic Games

19:30 Address by H.E. Mr. Daichi Suzuki,
Commissioner, Japan Sports Agency

19:35 *Kampai* speech by Mr. Ken Hasebe,
Mayor of Shibuya City

Buffet dinner
Raclette and bratwurst will be served in
the garden



Schedule

期間：2019年3月22日(金)～4月5日(金) 解散式 4月25日

訪問都市：ルツェルン / グリンデルワルト / ロシニエール /
ヴヴェイ / モントルー / ローザンヌ / ジュネーヴ

プログラム by スイス大使館 / スイス政府観光局

	Date	Day	City	Activities	Accommodation
Day 1	3月22日	金	東京	オリエンテーション@スイス大使公邸	成田空港近郊ホテル泊
Day 2	3月23日	土	成田 - チューリッヒ - ルツェルン	移動：鉄道でルツェルンへ	ルツェルン泊
Day 3	3月24日	日	ルツェルン - グリンデルワルト	ルツェルン 旧市街散策 GC International AG社訪問 (中尾会長) 交通博物館見学 KKL 移動：鉄道でグリンデルワルトへ	グリンデルワルト泊
Day 4	3月25日	月	グリンデルワルト	ユングフラウヨッホ (ユングフラウ鉄道) グリンデルワルト市長、安東夫妻 (日本語観光案内所) と面会	グリンデルワルト泊
Day 5	3月26日	火	グリンデルワルト - ロシニエール - ヴヴェイ	ロシニエール："グラン・シャレ" 節子・クロソフスカ・ド・ローラ伯爵夫人訪問 シャトー・デー： 気球博物館見学 デコパージュ博物館見学 移動：ヴヴェイへ (MOB ゴールデン・パスルートをオリエント・エクスプレスで)	ヴヴェイ泊
Day 6	3月27日	水	モントルー ヴヴェイ	モントルー：シオン城 レマン湖 Queen博物館見学 ヴヴェイ： チャプリンの墓 チャプリン・ワールド見学	ヴヴェイ泊
Day 7	3月28日	木	ヴヴェイ - モントルー - ロッシェ・ド・ネ - - ローザンヌ	ロッシェ・ド・ネ (MOB) 移動：ローザンヌへ (MOB) IOC (国際オリンピック委員会) 事前研修 (IOCスタッフ伊藤さん) エコール・シャンピテ (インターナショナルスクール) ウェルカム・パーティ ホストファミリー対面	ホームステイ
Day 8	3月29日	金	ローザンヌ	エコール・シャンピテ授業体験	ホームステイ
Day 9	3月30日	土	ローザンヌ	ホストファミリーと過ごす	ホームステイ
Day 10	3月31日	日	ローザンヌ	ホストファミリーと過ごす	ホームステイ
Day 11	4月1日	月	ローザンヌ - エトワ	サンスター訪問 (Etoy) 国際オリンピック委員会 トーマス・バッハ会長訪問	ホームステイ
Day 12	4月2日	火	ローザンヌ	Lausanne 2020 ユースオリンピック委員会訪問 オリンピック博物館訪問	ホームステイ
Day 13	4月3日	水	ジュネーヴ	IFRC (国際赤十字赤新月社連盟) 訪問 国際赤十字赤新月博物館見学 UNOCHA 国連人道問題調整事務所	ホームステイ
Day 14	4月4日	木	チューリッヒ - 成田	ジュネーヴ空港へ列車で移動 成田へ → 猛吹雪の為、チューリッヒ→ブリュッセル→成田へ変更	機内泊
Day 15	4月5日	金	東京	成田空港着 - 大使公邸にて解散式 → 成田空港が強風で着陸できず、羽田国際空港へ変更 → 到着が大幅に遅れた為、解散式は4月25日に変更	





Schweizerische Eidgenossenschaft
Confédération suisse
Confederazione Svizzera
Confederaziun svizra

Embassy of Switzerland in Japan
スイス大使館



Swiss Travel System.



SUNSTAR



Orientation at the Residence of the Ambassador of Switzerland

出発前研修会@スイス大使公邸
3月22日（金） 15:00- 16:30

PART 1.

1. 駐日スイス大使 ジャン＝フランソワ・パロ閣下 ご挨拶
2. Support Our Kids 事務局長 磯和樹 挨拶
3. 「現地プログラムについて」ジャン＝フランソワ・パロ大使、ユリア・グシニナ・パロ大使夫人
4. 参加生徒プレゼンテーション

PART 2. (スイス大使館)

1. 共同通信社
2. 保険について



ご来賓

スイス大使館 駐日スイス大使 ジャン＝フランソワ・パロ閣下

スイス大使館 ユリア・グシニナ・パロ大使夫人 Friends of Humanitarian Action特別顧問

スイス大使館 ジョナス・プルヴァ文化広報部長

ルフトハンザグループ (スイスインターナショナルエアラインズ) 日本・韓国支社長 ドナルド・ブンケンブルク様

ルフトハンザグループ (スイスインターナショナルエアラインズ) 東京営業支店 支店長 松本武志様

チューリッヒ保険会社 広報部 広報部長 古屋宏晃様

チューリッヒ生命 マーケティング・コミュニケーション部 部長 小林直子様

チューリッヒ生命 マーケティング・コミュニケーション部 広報 犀川雅未様

チューリッヒ生命 マーケティング・コミュニケーション部 社内広報 浦西くるみ様



ジャン＝フランソワ・パロ大使

“国際協力において私たちは子供たちの声をもっと重要視するべきだと考えています。しかし、実際に子供たちが意見を発表できる国際的な機会は多いとは言えません。そのようななかで、本日お会いするのはSOKのプログラムの中核を担うべく自ら志願し選ばれた子供たちです。”



ユリア・グシニナ・パロ大使夫人

“今回IFRCへの訪問をコーディネートさせていただいたのは、日本が国際的な援助を必要とする国だからではありません。日本の恒常的な国際協力にほかの国々が報いる貴重な機会であるからです。”



ルフトハンザグループ
ドナルド・ブレンクブルク様



チューリッヒ保険会社 古屋宏晃様
チューリッヒ生命 小林直子様

プログラムに参加する復興アンバサダー



佐藤葉月さん（岩手 高2）



高野圭太郎さん（福島 中2）



土佐海斗さん（宮城 高1）



佐々木響さん（福島 高1）



雁部みゆうさん（宮城 高3）



Luzern

Old City and KKL

ルツェルン
旧市街とKKL（コンサートホール）
ガイド: スイス政府観光局 牧野様

スイスの中央に位置し、美しい湖と奥に連なるアルプス、中世の建物がつむぎだす絵画のような風景の古都。



Swiss Travel System.



GC International AG

3月24日（日） 10:30

プログラム

1. オフィス見学
2. GC International AGについて
3. Q&A
4. SOK自己紹介
5. SOKプレゼンテーション
6. 交通博物館へ移動、ランチ
7. 交通博物館見学



【挑戦し続ける中尾さん】

会社の建物に入るとすぐに、GCの社是である「施無畏」の文字が目飛び込んで来た。一瞬、ここは日本かと思うほど堂々とした文字だった。中尾さんご自身が書かれたものだと知り、常に施無畏の言葉を大事にしているのだと感じた。

世界の虫歯問題に目を向けて、OHAPやMI(Minimal Intervention)コンセプトなど、たくさんの活動をしていることが知れた。また、東日本大震災の際に、国際歯科シンポジウムで集められたお金を日本赤十字に寄付されたり、震災以降は備蓄をするようになったりしたことを知った。そして、GCでは社員を「なかま」と呼び、みんなで会社をよくしている。私は、中尾さんのお話から、新しいことにどんどん挑戦していく力強さを感じた。

最後に、私たちの震災プレゼンテーションを皆さんに聞いていただいた。アドバイスを頂くことができたし、中尾さんの奥様から励ましのお言葉を頂き、私たちもっと頑張らなければと思った。GCの皆さんはとてもあたたかかった。

佐藤葉月





Top of Europe

Grindelwald

Thanks to
Jungfrau Railway



- グリンデルワルト村
- ❖ ユングフラウヨッホ
- ❖ フィルスト
- ❖ イーグルグライダー

ユングフラウ鉄道ご協賛
ガイド：フレディ・シャフナー氏



The Mayor of Grindelwald

グリンデルワルト村長



3月25日(月) 17:00

グリンデルワルト村のクリスチアン・アンデレック村長とグリンデルワルト日本語観光案内所の安東ご夫妻がSOKの訪問を歓迎してくださいました。

クリスチアン村長 安東夫妻 にお会いしてスイス人の日本人への思いについて深く教えていただきました。グリンデルワルトの皆様は、日本人へのイメージが良いこともありグリンデルワルトで過ごしていてすごく歓迎されていることを感じました。高野圭太郎



グリンデルワルトが東日本大震災の直後に日本を応援する活動をしたこと、村長が日本に4度も訪れたことなどを教えてくださった。日本に目を向けてくれていることが嬉しかったので、私もスイスのことについて更に知りたいと思った。佐藤葉月

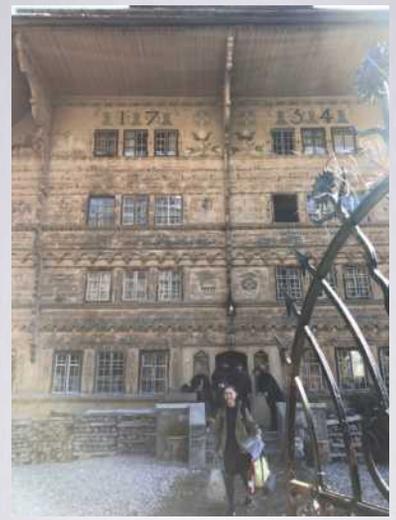
グリンデルワルトと日本の関係や東北支援をして下さったこと、村長の可愛らしい一面など、1時間以上お話していましたが、あまりの楽しさにあっという間に時間が過ぎてしまいました。土佐海斗

村長をはじめとするグリンデルワルトの方達を忘れずに、あのような温かい対応ができるようになりたいなと思いました。佐々木響

【支え合いの村 Grindelwald】

村長さんは明るく、誰よりも周りを気にかけてくれて、こんなにも親しくしてくれるのかと驚きました。グリンデルワルトでは東日本大震災の時もすぐに日本を支援して下さったと聞き、今までのグリンデルワルトと日本の繋がりに感動しました。私達がこんなにも歓迎されているのは、以前訪れた日本人の方々のお陰なんだなと思いました。私も他の国に行った時、少しでも日本人としての良い姿見せれるようにしたいと思います。今日もたくさんのお会いがあり、素敵な一日でした。雁部みゆう





節子さんは、長い間日本を離れて暮らしていますが、昔ながらの日本の文化を大切にしています。スイスのシャーレと節子さんの和の暮らしは見事にマッチしていて憧れました。私たちは節子さんから、若者のあり方について聞きました。日本人は周りの他の人と意見を同じにしがちだけれど、スイスの若者は自分の考えで行動しており、それが今の世界を変えていけると話していました。その行動は、欧州で最近盛んになってきている、若者によるデモ活動のや、スイスでは日本よりリサイクルをする人が多いということなどです。節子さんは、自分の考えをはっきり持ち、さらに日本人の落ち着いた雰囲気も兼ね備えていました。私たちが若者としてこれから世界をどうしていきたいかを考え、行動に移していかなければいけないと実感させられるお話でした。

Rossinière

Countess Setsuko Klossowski de Rola & Le Grand Chalet

佐藤葉月

ロシニエール
節子・クロソフスカ・ド・ローラ伯爵夫人
グランシャレ



ランチをしながら、私たちの考えについて真剣に考えてくださりました。どんなことをすることが大切なのか、私たちがどんなことをしなければならないのかを教えてくださいました。若者が行動することの意味について深く教えてください、これからの私たちの生き方に刺激を与えてくださいました。

高野圭太郎



Chateau-d'Oex

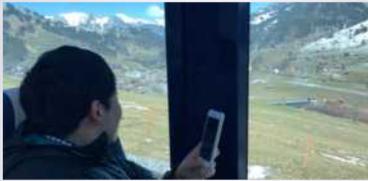
シャトー・デー
ガイド：スイス政府観光局 牧野様

昔ながらの酪農農家が多く、牧上りや牧下りといった行事や、牧童の暮らしをモチーフにした切り絵細工などに伝統が息づいています。1999年にこの地を出発した熱気球が世界一周無着陸飛行に成功したことで有名。



Swiss Travel System.





Beautiful Train Journey

スイストラベルパスを使用した美しい列車の旅
ガイド: スイス政府観光局 牧野様





Montreux

Chateau de Chillon

Lake Geneva

Queen The Studio Experience



モントルー：シヨン城 レマン湖 クイーン記念館
ガイド：スイス政府観光局 牧野様

“スイスのリヴィエラ”レマン湖畔のエレガントなリゾート。ベルエポック時代には、王侯貴族たちが集った華やかな歴史を誇る。シヨン城、周囲に広がる葡萄畑、レマン湖とアルプスの山並みが織り成す美しい風景は、多くの芸術家をも魅了してきた。ルソー、バイロン、ヘミングウェイがこの地を舞台に小説を書きあげ、ストラヴィンスキーからフレディ・マーキュリーまで数々の名曲を生み出しています。

Swiss Travel System.





Vevey

Chaplin's World & Chaplin's Grave

ヴヴェイ：チャップリン・ワールド
ガイド：スイス政府観光局 牧野様

スイスを愛し、永住の地とした世界の喜劇王
チャーリー・チャップリン。大きな木々に周囲
を覆われた美しい庭、アルプスと湖をのぞむ眺
望、瀟洒な白亜のお屋敷に魅せられ、晩年の
25年間を過ごし、彼の終の住処となった邸宅
でチャップリンの世界を体験。

【チャーリーチャップリンの全て】
私はこのミュージアムに行ってチャップリン
の偉大さ、優しさ、人脈の広さを知ることが
できました。映画も見ましたが、思わず笑っ
てしまうものばかりでした。高野圭太郎

Swiss Travel System.





Thanks to MOB Rochers- de-Naye

Guided by Mr. Niklaus Mani

ロッシェ・ド・ネ エクスカーション
MOBご協賛ガイド: ニコラス・マニ氏

MOBの登山列車で展望スポットのロッシェ・ド・ネへ。モンブランを代表とするフレンチアルプスを眺め、展望レストランでランチをいただきました。ニコラスさんにはフランス語を教えてくださいました。帰りはレマン湖沿いを散歩し、クイーンの家など眺めながらモントルーへ戻りました。



【さらさらの雪】

鉄道のなかは落ち着いた雰囲気で、どんどん上に登っていった。私たちは普通の靴だったので不安だったが、頂上を目指して歩いて登ることにした。スキーヤーとすれ違いながら、転ばないように慎重に歩いていくと、展望台に着いた。よく晴れていて、アルプスの山々を見渡すことができた。山を下るとき、私は落ちないようにニコラスさんが作ってくれた段差を踏んで降りた。ランチにチーズフォンデュを食べ、チーズの中にパンを落としたり罰ゲームがあることなどを教えてくれた。空気が美味しくて雪の山を見渡せるのでとても場所だった。

佐藤葉月





COLLÈGE CHAMPITTET Pully
FONDÉ EN 1903

Ecole Champittet

インターナショナルスクール

Lausanne

3月28日（木）

17:00 ウェルカムパーティー

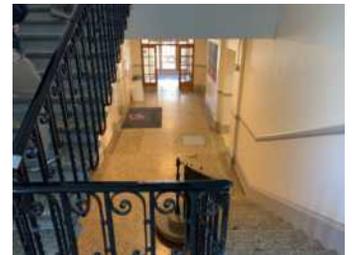
3月29日（金）

学校見学

授業体験

ランチ

授業体験



スイスは環境保護に関心のある人が多いと感じました。プラスチックを使わないようにしようとする社会があり、学校では生徒たちによる気候変動に抗議することについてのディベートが行われていました。私は、スイスの若者の環境に対する活動の活発さに驚きました。ディベートの活発さからもうかがえるように、若者が自分の意志で行動したり考えをはっきりと伝えたりすることが当たり前に行われていました。私は大人の指示に従いがちなので、自分がどうしていきたいかという意味をもって行動に移していかなければいけないということを学びました。

佐藤葉月





Thank you so much to
Mr. Philippe De Korodi
The Headmaster of Ecole Champittet



SUNSTAR

Thank you so much to
Ms. Mayumi Kaneda, Director of Sunstar Foundation
Dr. Wieland Noetzold, Senior Executive Officer
Ms. Julia Linz, Senior Director

4月1日（月）10:00 in Etoy

プログラム

1. オフィス見学
2. SUNSTARについて
5. SOKプレゼンテーション
6. ランチ
7. 写真撮影



IOC

INTERNATIONAL
OLYMPIC COMMITTEE
国際オリンピック委員会
トーマス・バッハ会長

4月1日（月）



私は個人目標として福島の農産物に対する風評被害を払拭するに關することを掲げ、福島農産物に関するデータなどをスイスで様々な方々の前で発表していました。

IOCのバッハ会長とのディスカッションで、バッハ会長は、「昨年11月に福島に行った際に福島の農産物を食べた。福島の農産物はおいしいし安全だということを私が世界に保証します。」と仰っていただくことができました。

このことを福島県の農家さんに伝えたら、どれだけの活力を産むか、学生に伝えたら、どれだけの福島県の農産物を誇りに思うのか。本当に涙が出てきそうになるほどバッハ会長の言葉が嬉しかったです。

高野圭太郎



Meeting Olympians





Olympics: IOC head Bach hosts Japanese students from quake-hit areas

IOC head Thomas Bach hosts a group of young students from Fukushima, Japan, during their visit to the International Olympic Committee in Lausanne.



Lausanne, Switzerland - International Olympic Committee President Thomas Bach on Monday hosted a group of students from northeastern Japan to discuss the region's recovery from the March 2011 earthquake and tsunami disaster, as well as preparations for the 2020 Tokyo Games.

The five teenage "reconstruction ambassadors" from Iwate, Miyagi and Fukushima prefectures in the Tohoku region told the IOC chief about the current situation in the area and the role of sports in its revitalization.

One of the students, 14-year-old Keitaro Takano, has been campaigning to repair the image of agricultural products from Fukushima Prefecture. Their reputation has been affected by the nuclear crisis stemming from the earthquake and tsunami disaster.

"The Olympics have attracted attention from all over the world. Mr. Bach has given us his backing, in hopefully we can gain even more support," Takano said.



As Fukushima is set to host baseball and softball at the Olympics, Bach invited the youngsters to attend a game together with him.

Bach said he was impressed by the work that the ambassadors had done in their communities, and was extending the invitation as a sign of his appreciation.

東日本大震災で被災した中学生 IOC会長に平和メッセージ

2011年東日本大震災で被災した中学生4人が、スイス・ローザンヌにある国際オリンピック委員会（IOC）本部を訪れ、IOC会長トーマス・バハに平和メッセージを平和メッセージを贈った。

「IOCは世界中の平和を促進し、スポーツを通じて人々の心を一つにする役割を果たしている。私たちは、被災地を支援し、復興を促すためにIOCと協力したい」と、バハ会長は歓迎した。

被災地からの中学生4人は、バハ会長に平和メッセージを贈った。バハ会長は、被災地を支援し、復興を促すためにIOCと協力したいと歓迎した。



IOC会長に平和メッセージ入りのTシャツを贈る被災地の中学生

国際オリンピック委員会（IOC）本部を訪れた4人の中学生は、IOC会長トーマス・バハに平和メッセージを贈った。バハ会長は、被災地を支援し、復興を促すためにIOCと協力したいと歓迎した。

「IOCは世界中の平和を促進し、スポーツを通じて人々の心を一つにする役割を果たしている。私たちは、被災地を支援し、復興を促すためにIOCと協力したい」と、バハ会長は歓迎した。

被災中学生から東京五輪招待 福島での野球にIOC会長

国際オリンピック委員会（IOC）本部を訪れた4人の中学生は、IOC会長トーマス・バハに平和メッセージを贈った。バハ会長は、被災地を支援し、復興を促すためにIOCと協力したいと歓迎した。

「IOCは世界中の平和を促進し、スポーツを通じて人々の心を一つにする役割を果たしている。私たちは、被災地を支援し、復興を促すためにIOCと協力したい」と、バハ会長は歓迎した。



IOCのバハ会長（左から4人目）と並んで、東北地方から来た中学生4人が、IOC本部を訪れた。バハ会長は、被災地を支援し、復興を促すためにIOCと協力したいと歓迎した。

「IOCは世界中の平和を促進し、スポーツを通じて人々の心を一つにする役割を果たしている。私たちは、被災地を支援し、復興を促すためにIOCと協力したい」と、バハ会長は歓迎した。

被災中学生から東京五輪招待 福島での野球にIOC会長

国際オリンピック委員会（IOC）本部を訪れた4人の中学生は、IOC会長トーマス・バハに平和メッセージを贈った。バハ会長は、被災地を支援し、復興を促すためにIOCと協力したいと歓迎した。

「IOCは世界中の平和を促進し、スポーツを通じて人々の心を一つにする役割を果たしている。私たちは、被災地を支援し、復興を促すためにIOCと協力したい」と、バハ会長は歓迎した。

「復興アンバサダー（大使）」と名付けられた男子3人、女子2人の訪問団は、被災地の現状やスポーツを通じて復興につなげるバハ会長と意見交換した。（共同）

スーパリーグ2019 開幕！

スーパリーグ2019開幕！開幕戦は4月1日（日）午後5時、東京ドームで行われます。開幕戦は、ソフトバンクホークス対横浜DeNAベイスターズです。

五輪、被災中学生と親睦へ IOCバハ会長



【ローザンヌ（スイス）共同】国際オリンピック委員会（IOC）のバハ会長は1日、当初に予定された東京五輪で被災地から招待された選手、宮城、福島の中学生らと会食し、一部が福島市で実施される2020年東京五輪の野球・ソフトボールに招待して一緒に観戦する考えを伝えた。

「復興アンバサダー（大使）」と名付けられた男子3人、女子2人の訪問団は、被災地の現状やスポーツを通じて復興につなげるバハ会長と意見交換した。（共同）

被災中学生から東京五輪招待 福島での野球にIOC会長

国際オリンピック委員会（IOC）本部を訪れた4人の中学生は、IOC会長トーマス・バハに平和メッセージを贈った。バハ会長は、被災地を支援し、復興を促すためにIOCと協力したいと歓迎した。

「IOCは世界中の平和を促進し、スポーツを通じて人々の心を一つにする役割を果たしている。私たちは、被災地を支援し、復興を促すためにIOCと協力したい」と、バハ会長は歓迎した。



IOCのバハ会長（左から4人目）と並んで、東北地方から来た中学生4人が、IOC本部を訪れた。バハ会長は、被災地を支援し、復興を促すためにIOCと協力したいと歓迎した。

「IOCは世界中の平和を促進し、スポーツを通じて人々の心を一つにする役割を果たしている。私たちは、被災地を支援し、復興を促すためにIOCと協力したい」と、バハ会長は歓迎した。

被災中学生から東京五輪招待 福島での野球にIOC会長

国際オリンピック委員会（IOC）本部を訪れた4人の中学生は、IOC会長トーマス・バハに平和メッセージを贈った。バハ会長は、被災地を支援し、復興を促すためにIOCと協力したいと歓迎した。

「IOCは世界中の平和を促進し、スポーツを通じて人々の心を一つにする役割を果たしている。私たちは、被災地を支援し、復興を促すためにIOCと協力したい」と、バハ会長は歓迎した。

「復興アンバサダー（大使）」と名付けられた男子3人、女子2人の訪問団は、被災地の現状やスポーツを通じて復興につなげるバハ会長と意見交換した。（共同）



Lausanne 2020 Olympic Committee

Thank you so much to
Mr. Olivier Delapierre

“若者”がいかにこれからの世界を作るうえで重要かということを私はスイスで学びました。出会った人達の話の中のキーワードとしても若者という言葉がたくさん使われていました。

ローザンヌ2020ユースオリンピックの企画やメダルのデザインに至るまで、実際にローザンヌの多くの若者たちが関わっていました。そのような活動をする機会が多いからか、私に関わることでできた若者たちは学校のゴミ箱の管理から環境問題までさまざまな問題について意見を持っている人たちばかりでした。これだけ社会に関心を持っているのはすごいなととても感銘を受けました。

私が青少年育成で目指す理想像は「社会問題へ自発的に取り組みアクションを起こせる人」というものなので、スイスの人たちはその理想像にとっても近いため自分の目指しているものを再確認できました。

佐々木響

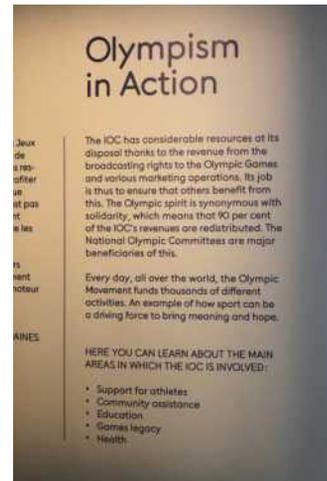


The Olympic Museum

SOK learned about history and the Olympic spirit.

Thanks to
Mr. Delapierre, Lausanne 2020





IFRC

International Federation of
Red Cross and Red Crescent Societies
国際赤十字・赤新月社連盟



Thank you so much to

Mr. Jagan Chapagain, Under Secretary General Programmes and Operations

Mrs. Fatiha Hamza-Moulin, Officer

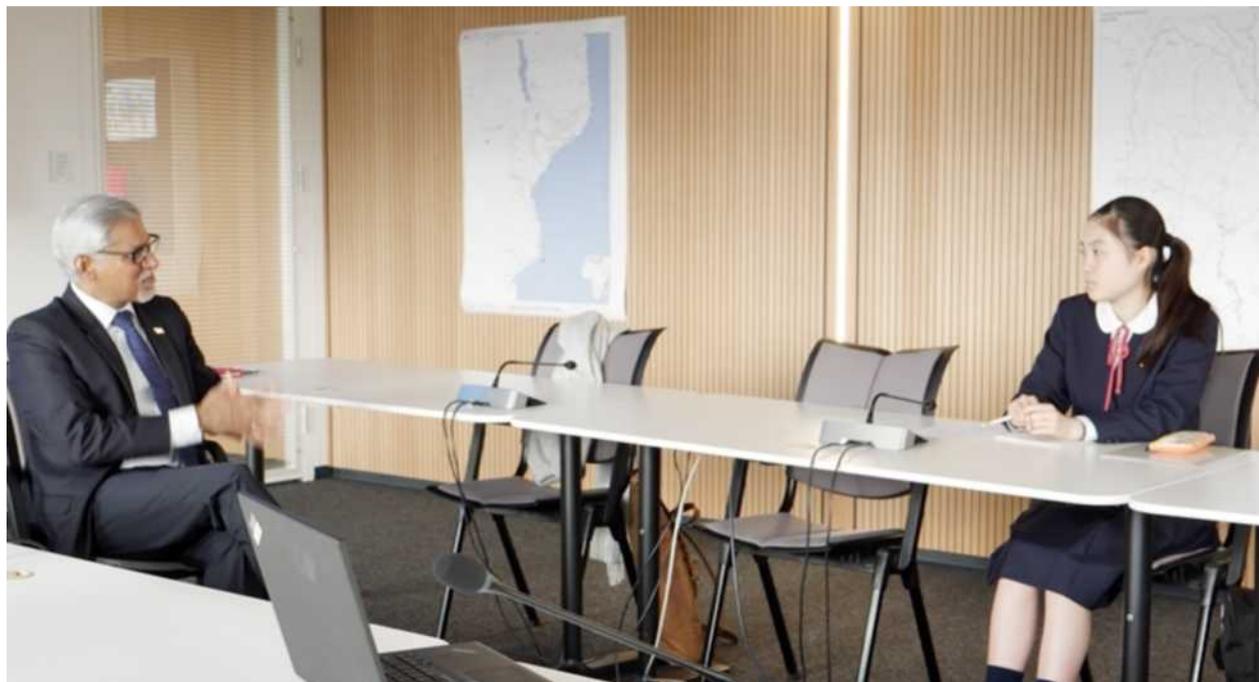
Mr. Sune Bulow, Manage, Emergency Operations Center

Ms. Naomi Akamatsu, National Society Development

Ms. Rena Igarashi, Senior Officer, Operations Coordination

IFRCを訪れた際に、世界中どこへでも国や人種に関係なく、困っている地域を制限なく救いたいという思いで活動しているというお話を聞いて、私も将来は災害などで行くことが難しいような場所でも行って人の支えになるナースになりたいと思いました。

佐藤葉月





4月3日(水) 9:30

プログラム

1. ご挨拶 Mr. Chapagain
2. IFRCについて Mrs. Hamza
3. オフィス見学
4. プレゼンテーション by Mr. Bulow
5. ランチ (IFRC カフェテリア)
6. SOK プレゼンテーション



赤十字の創設は、簡単なものではなかったのだと思いました。アンリー・デュナンが、困っている人を助けたいという思いで人に訴えたり、本を出版したりした話を聞いて、たくさんの勇気ある彼の行動が今の赤十字をつくったのだと学びました。アンリー・デュナンは、自分のことだけでなく、他の人や地域に目を向けて大変な時代を生きていました。今の時代は移動や情報収集がしやすく、私たちもそれを利用して世界に目を向けられるので、積極的に知っていきたいと思いました。今回学んだことを、将来看護師として勇気ある行動をすることで活かしていきたいです。IFRCに行ったことで将来の目標がより明確になりました。

佐藤葉月



【縁の下の力持ち】

防災についてはよく学ぶ機会が多かったが、有事に支援する側にとって考えたことがあまりなかった。そこで今日、災害に対する支援体制や、その種類や支援に上限がないこと、どのように各国へ支援の要請を出すかなどの知識を得た。これを知ると自分たちが被害を受けた際にも聞いたような形で支援が世界各国から来ていたということが、とても感慨深く感じた。そして遠い存在だと思っていたIFRCは意外と各支社との繋がりが強く、自分もサポートされていたんだとありがたく思った。

佐々木響



赤十字は東日本大震災が発災した時にたくさんの支援をしてくれた団体のひとつです。赤十字と言っても世界各国の赤十字が支援してくれました。今回はそのたくさんある赤十字の中の連盟本部に行きました。

東日本大震災以降は原子力発電所に関する部署もでき、原子力発電所で事故があった時の対処方法などを調べ、レクチャーしているそうです。

こうして、実際に行ってお話を聞かないと分からないこともたくさんあったので行けて良かったです。

午後は震災プレゼンをしました。赤十字の方も福島のことをはじめ、東日本大震災について一生懸命考えてくれたので発表したかいがあったと思います。その後、赤十字ミュージアムに行き、昔と今の赤十字についてなどを学びました。



土佐海斗



【アンリ・デュナンが始めた助け合い】

私たちは赤十字の深い歴史から国際赤十字・赤新月社連盟の役割について学びました。

私が一番心に残っている言葉は、

「先進国にも発展途上国にも支援する量は変わらない」
一般的に先進国の方が多くお金を所有しているのに、震災対応も賄えると思いますが、そこに赤十字のモットー「公平」というもので平等になります。

同じ震災で辛い思いをしているに違いないだからという言葉に胸を刺されました。



高野圭太郎



Jagan Chapagain
@JChapagain_FRIC

Follow

Met young students from Japan at the @ifrc today who witnessed the devastation of triple disasters 8 years ago. Now they are committed to make a difference and are learning the humanitarian work facilitated by Japanese project, "Support Our Kids". Inspiring stories!!!





musée +C Genève





UNOCHA

United Nations Office for
the Coordination of Humanitarian Affairs

国連人道問題調整事務所



Thank you so much to

Mr. Ramesh Rajasingham, Director of the Coordination Division

Mr. Winston Chang, Global Thematic Focal Point for the International Search and Rescue Advisory Group (INSARAG) Secretariat

Mr. Peter Muller, regional disaster response adviser (UNDAC)

Ms. Margaux Guigal

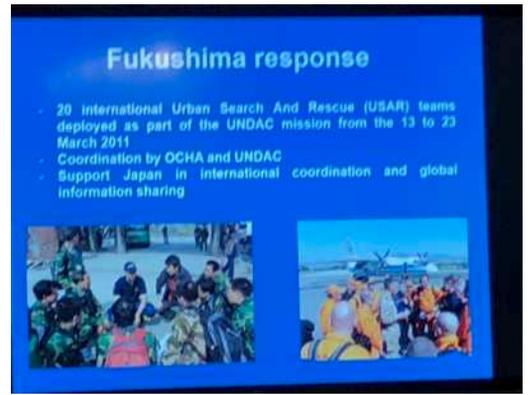
Ms. Sabrina Delphine Odot



4月3日（水） 15:30

プログラム

1. UNOCHA見学
2. Mr. Rajasingham ご挨拶
3. SOK プレゼンテーション
4. “Fukushima Response” by Ms. Guigal and Ms. Odot
5. 修了証



自然災害や紛争が起きた際に即時に助けに迎えに来る国際的の団体の方々でした。最新の危機を駆使したりして人々を助けるとともに、震災の状況を世界に伝えてくださっています。もちろん東日本大震災時にも支援していただきました。震災の過酷な経験を乗り越え、「人道大国」への一歩を力強く歩み出してほしいとおしゃっていて、私たちが「人道大国」にするためにボランティア活動などをしなければならないと強く思いました。

高野圭太郎



Thank you so much to Host Family in Lausanne

Mar 28 – Apr 4



優しいお母さん、お父さんと元気な子供たちの5人家族でした。家は山の上にあり、自然に囲まれてのびのびと暮らせそうな所でした。私は、夕方に子供たちと庭で走り回ったり、夕食後に日本語を教えたりする時間がとても楽しかったです。言葉は上手く話せなくても、遊びならどんどん仲良くなります。

夕食にはいつもスイスならではの料理を出してくれました。ヨーデルの音楽を聴きながらみんなでチーズフォンデュを食べたり、私が小さいポテトが好きだと知り、それを使った料理を出してくれたりしました。週末にはお父さんとルイと私たちでローザンヌの町を歩きました。お父さんがいろいろな所を案内してくれました。ローザンヌの教会や坂道を巡りましたが、どれもきれいでした。市場やオーガニックスーパーでは様々な種類のチーズやパンを教えてくださいました。家族は日本に興味を持ってくれていて、家にある日本のウイスキーや料理本を見せてくれました。お母さんが食事の時に食べやすいように私たちに箸を出してくれました。私たちが箸を使うのを見て、子供たちも箸で食べようと頑張っていました。スイスの家族と過ごして、よりスイスの魅力を知ることが出来たし、日本の文化も知ってもらうことができました。

スイスに再び行ったときには、ホストファミリーにもう一度会いたいです。

佐藤葉月

ホストファミリー全員が笑顔で迎えて入れてくれました。私はバスケットが好きだという話をすると、一緒に遊ぼう！とたくさん声をかけてくれてすぐ打ち解けることができました。家に着くと、想像以上の大きさと豪華さに驚きを隠せませんでした。家の中を案内してくれ、絵を描く部屋やワインの部屋、ゲームルームなど日本の家には無いような部屋があったので楽しかったです。また、自然に囲まれていて、鳥の声や風の音、木の音が聞こえる心地の良い場所でした。家の中は、イースター仕様のデコレーションされていて可愛かったです。日本からのお土産を渡すと、日本に興味があると言ってとても喜んでくれました。寝る前に折り紙で鶴を作りました。私自身折り紙をするのは久しぶりだったのですが、改めて折り紙の美しさを実感しました。また、私が是非日本の文化に触れてもらいたいと思い、茶道を披露したり、実際に体験してもらいました。英語で説明するのは難しかったけれどいい経験になりました。

休日はLausanneの市場とグリューエルに行きました。Lausanneには歴史的建造物がたくさんあり、物知りのホストファミリーはひとつひとつ説明してくれました。景色の良い場所でたくさん写真を撮ってくれ、思い出を作れました。市場ではスイスならではの食べ物やパンの大きさ、チーズの種類に驚きました。お寿司が売られているのを見て嬉しくなりました。

グリューエルはスイスの観光地であり、丘の上からの景色は本当に綺麗でした。美味しいアイスやサンドウィッチを食べながらゆっくりと過ごしました。チーズ工場では、チーズを作るのに多くの牛乳や時間をかけているんだなと驚きました。その日の夜は、今まで食べた中で一番美味しいチーズフォンデュを作って頂きました。スイスのチーズはどれも味が違うけれど、濃厚で美味しかったです。短い間でしたが本当の家族の様に接して頂いて嬉しかったです。

雁部みゆう



普段の生活ではフランス語を使っていたみたいですが、私が英語と日本語しか話せないことを考慮して、英語で会話してくださいました。子供たちとはキックスケーターに乗ったり、ミニカーで遊びました。人懐っこくてとても可愛かったです。日本の緑茶を作ってあげた時に家族が美味しいと言ってとても嬉しかったです。そして最終日には私に大量にプレゼントをくださり、本当に最高のホームステイ先だったと思います。

高野圭太郎

最初は緊張して話しかけることは出来なかったけれど、ホストファミリーが優しく話しかけてくれて、コミュニケーションをとることができました。分からない英語があっても丁寧にゆっくりと話してくれたので、安心してはなすことができました。また、スイスのフランス語圏の生活を直に触れることができ、非常に貴重な時間を過ごすことができました。ホストマザーにはいろんな場所に連れて行ってもらいました。スイスの建築についてさらに深くすることができました。ホストシスターにはローザンヌの街を紹介してもらいました。また、ピザも食べました。美味しかったです！他には、ホストシスターだけでなく彼女の友達とも仲良くなれたので良かったです。1週間長いようで短かったです、本当に貴重な体験ができました。ありがとうございました。今度はぜひ日本に来てもらっておもてなしをしたいです。本当の日本食をぜひ食べてもらいたいです。

土佐海斗



まずホストファミリーのみなさんは私の稚拙な英語を辛抱強く聞いてくれました。私がいくら言葉に詰まっても待っていてくれたり、伝わるまで私に問いかけてくれたりしました。なので英語が話せないことからくる会話することの恐怖心がなくなり、たくさん話すことができました。そのため日を追うごとに「あ、伝わっているんだ」という安心感と達成感を得ることが多くなり、微々たるものですが英語の上達も感じました。また、食文化の違いにも気にかけてくれて「嫌いなものがあっても残しても大丈夫。私も日本食で食べれないものがあるから。」と初日に声をかけてくれました。私はその言葉にとっても安心しましたしこの寛大さを見習いたいとも思いました。

土日に家族と出かけた際はSBBの工場を見学したり、ベルンの街を巡ったり、ホストマザーの親戚のみなさんと一緒にご飯を食べたりなどをしてスイス人の休日のような時間を過ごしました。さらにはサプライズで靴下と水筒のお土産をくださり、とても驚きましたし、初めてサプライズをうれしく思いました。

本当に言語の壁を懸念していたので少し身構えてしまっていた私を安心させてくれたホストファミリーには感謝しかありません。また自分でスイスに行ったときにはファミリーに会いたいです。

佐々木響

Closing Ceremony at the Residence of the Ambassador of Switzerland

4月25日（木）解散式@スイス大使公邸

Part 1. 17:30-18:00



Part 2. 18:30 “スイス・グランドツアーin Japan” 完成記念お披露目会



After the program...

校長先生や先生方への報告会



ボランティア活動へ参加、ステージでスイス体験発表



New Beginning !

スイスの自然と人に学ぶ

アルプス

久慈高校3年 佐藤葉月

三月二二日と四月四日の約二週間、東北の中高生五人で復興アンバサダーとしてスイスを訪れた。

スイスほど自然の豊かさを感ずることができる。アルプスの山々、青く透明な湖、まだ雪が残る緑の草原。これらの自然とスイスの古い町並み、そこを歩く人々がマッチして、うっとりするような風景を作り出していた。なぜ、こ

のような風景がどこまでも広がっているのか。そのことには、スイスの人々の時間の使い方にあった。多くの人がゆとりと落ち着いて生活をしていて。また、人と過ごす時間を大切にしていた。湖のほとりでは人と過ごし、挨拶は笑顔で目を見つめる。人の話しは最後まで真剣に聞く。英語が上手く伝えられない私に代わって聞かせてくれた。このように、スイスには、今の日本人に欠け

湖

スイスには約1,500もの湖がある。大きさはどれも様々だが、どれも水に太陽の光が当たりキラキラと輝くように美しい。また、透き通った水に周りには山々が映りこんでいるのもきれいだ。鉄道は湖の形に沿って走るものも多く、車窓からいくつもの湖を眺めることができる。

それらの湖のひとつに、レマン湖がある。レマン湖のまわりを歩くと、アート作品や像を見ることが出来る。像は、フレドール・マールリーやチャップリンなど、スイスの美しさを表現された彫り物だ。偉人たちが。そのような人が住みたくなるほど、スイスは美しい国なのだ。



環境問題への関心

自然に寄り添いながら過ごす人々の姿が、スイスの風景をより美しくみせていると感じた。日常での人との繋がりを大切にしている習慣も、時間とバリエーションを求めているからこそのあるのだと感じた。

自然災害の多い日本では、いつ何が起きても助け合いが必要だ。普段の生活から人との関わりを大切に、地域社会での繋がりを強めたいと感じた。

私はスイスを訪れて、人々の自然環境を守りたいという思いが強いことに驚いた。

私たちが訪問した会社では、プラスチックを使わない取り組みをはじめようとしていた。さらに、将来はプラスチックを使わない製品を開発したいと考えていた。また、ある学校の校長は、急激な変動に抗議することになった。ドイツのダイアットが行った。様々な年齢

の生徒たちが次々に意見を話していた。その様子からは、環境問題が自分ごととして捉えられていることがうかがえた。さらに、学校を休んで環境保護のためのデモに参加する生徒もいると知り、若者のエコに対する関心の高さを感じた。

私たちが日本の若者も自分たちの将来を守りたい地元の自然のために、できることを考え、自分の意思で行動していく必要がある。

復興アンバサダーとしての

スイス研修

福島大学 復興支援部
高野 三太郎

人柄の 方々の スイス

3月22日から
4月5日まで
復興アンバサダー
としてスイスへ
行き研修をして
きました。

私たちがスイ
スでの研修中の
一週間ホームス
テイをさせてい
たきました。
このような経験

私がスイスで見た絶景

美しい自然が
あふれる

日本は美しい自然が
たくさんあります。が、
私はスイスでそれらも
超えてしまうほどのあ
じらしい絶景を見させて
いただきました。

まずは四季が美しい
イメーター絶景でした。
以上あるユ
ニゲフラウ
です。日本
では見な



なびきとしたスイスに住
ぶ方々の人柄を垣間見
ることができました。
私が気づいた日本人と
の違いは、外向的な方
々が多いことです。例
としてホームステイ先
の家族と初めにお話す
時にハグしてもちろ、下
ことや、現地の方へ
行かせていただいた時
は「二人にうほー」あ
りがとうーなど日本語

が話しかけてきた。木
下ことです。このよう
に押しこめださるスイ
スの方も、ほっとした
まて緊張している私た
ちを優しく包みこむよ
うに優しくしてくる感動
しました。この経験も
東京オリンピックで海
外からいらし、しゃる観
覧客の方々などに生か
れ、日本人らしく敬意
を払ったフレンドリー
さを心がけて提供するこ
とで、エリスマーズに
オリンピックを申しん
でもう入ると思いま

つぎに美しいと思っ
た地はレマン湖です。
レマン湖はフランスと
スイスに跨り、こいま
山々としてマ
ン湖のコン
トラストは
最高です。



復興アンバサダーとしての使命

私が出発前に宣言し
た目標は「スイスの方
々に福島県の農産物の
安全性を伝えるという
ことでした。結果的に
私たちのアレセンター
ニコンの感想等で「ゼ
ル福島県に行く。これ
どを食べてみたい」と
いう声を聞くことがで
きたので目標は達成で
きたと自負しています。
また私たちはIROC
会長のバツハさんとア
イスカッションさせて
いたおく機会を設けて
いただきました。そこ
でバツハ会長は「福島
へ行く、た時、農産物や
フルーツを食べるとこ
を美味しかったから、
確認済みだよ」とお

編集後記

私が復興アンバサダ
ーとしてのスイス研修
を新聞にまとめました
が、こんなことがあ
たなと思いついたから
書いておくとあ。とい
う間に書き上がった
ました。多くの皆さん
見ていただいたります。



スイス タイムス



MYU
GAMBE

世界が較べかるオリンピック

私達は、エロシやローザンヌエロニエ、オリンピック委員会、エロシやローザンヌエロニエの会長との対談では、「世界が今唯一一つにたれるものはオリンピックである」とおっしゃっていました。スポーツは人の心を支えることであり、言葉や文化が通くても世界の人と交流できるものだと改めてスポーツの可能性に気がつくことができました。エロニエ年の東京オリンピックを日本全体で盛り上げたいです。



世界は今、「若い力」を必要としている！！

研修を通して気づいたことは、ヨーロッパの子供達は今の世界の環境問題に対して関心が高いということです。毎週金曜日に学校に行かず地球温暖化対策を呼びかけるとともに参加していることがわかりました。私は、同じ地球に住む一員として、もっと視野を広く持ち、私達が暮らしている未来を守っていかねばならないと思いました。



Top of Europe!!

私達は、スイスの世界遺産であるエングフラウヨッホに行きました。鉄道で登山口までいき、空気が薄くなり、目の前に大自然が広がっていました。その壮大な高層がたちまち、



共生社会に向けて

今回の研修の目標は、様々な国の人々が一緒に暮らすスイスから共生社会のヒントを見つけてきたこと、ではない。東日本大震災の復興に繋がってほしいというメッセージでした。実際にスイスへ行ってみると、地域によって文化や言語が全く違っていました。その中で、お互いを尊重し合っていて生活しているスイスの人々の暮らしを見て、

共生社会。つまり、この大切さを改めて感じました。私もいつか、東日本大震災の世界中からの支援に感謝し、支え合いの世界を作りたいです。

ホストファミリー

ホストファミリーのなかには、家族の様に接して頂いて楽しい日々を過ごせました。私は、幼い頃から習っていた茶道を披露し、英語で伝えた事も良い経験になりました。



編集後記

スイスでの二週間はとても充実していて、手とめるのが大変でした。スイスの人や自然に触れてみて、スイスが大好きになりました。これからスイスの魅力がいよいよ分かるかと信じていけたら良いかなと思います。ありがとうございました。





スイスには複数の言語が公用語であり、更に多様な文化が入り混じっている。そのための建築様式も地域によって異なる。中でも「シュタレー」という建築様式が有名である。シュタレーは三角屋根が建物の高側に大きく張り出し

特徴

Architecture への知識

仙台高等専門学校
建築デザインコース
土佐 海斗

Rolex Learning Center

ロレックス ラーニングセンター

まいるのが特徴的である。また、木製のバルコニーと彫刻された飾り品も印象的である。今回のプログラムではグリーンデルワルトでの建築様式も見た。個人的には色が日本と違い、ハンドル式も厚みがあり、機能面も考えられている。パワポ多岐にわたる。スイスとはこういう夏はベロも乗ってほしい。

下、勿目的な学習拠点である。この建物は非常に特徴的で、複数の大規模な窓が並び、床が暖かい。天井や床に大理石が敷き詰められている。窓は七角形以上ある中、六角形の窓が異なる。建物は大規模であるが、基本的にはワンルームで明確な区切りが少なく、レストランや図書室があるが、ゆるやかな床の高さを利用して区別されている。空間感自由に使えるのはとても良いと思う。

ローレックス スライニング センター は日本の建築家の妹島和世と西沢立衛により設計された。

この家は、湖から四メートルの位置にある。そのため、横は長い。窓からはレマン湖とアルプス山脈を一望することができる。また、家の中でも特長的である。家と屋は可動式で自由に合わせ、変えることができるように作られている。他にも、屋上にはウッドデッキがあり、そのまま日傘があふく下

家、この家はスイス出身の建築家で近代建築の父と云われるル・コルブジエが高級なために行った家である。



霜庭の世界

レマン湖畔の小さな家、この家はスイス出身の建築家で近代建築の父と云われるル・コルブジエが高級なために行った家である。この家は、湖から四メートルの位置にある。そのため、横は長い。窓からはレマン湖とアルプス山脈を一望することができる。また、家の中でも特長的である。家と屋は可動式で自由に合わせ、変えることができるように作られている。他にも、屋上にはウッドデッキがあり、そのまま日傘があふく下

編集後記

今回は、建築をメインに新聞を作成しました。スイスでは近代から現代建築、記事には残っているすべから成百とを見てきました。どこもこれも新鮮で建築というものの魅力を感じました。この体験を活かせるよう今後の勉強も頑張りたいです。



家がある。機能性、デザイン性どちらも兼ねているので、建築にハマって学ぶことは、ぜひとも参考にしたい。

Special Thanks to

Embassy of Switzerland スイス大使館
Switzerland Tourism スイス政府観光局
IFRC 国際赤十字・赤新月社連盟
UNOCHA 国連人道問題調整事務所
IOC 国際オリンピック委員会
Lausanne2020 ローザンヌ2020

Swiss International Air Lines スイス航空
Zurich Insurance Company / Zurich Life Insurance Company
チューリッヒ保険 チューリッヒ生命
SUNSTAR Suisse SA サンスター
Jungfrau Railway ユングフラウ鉄道
MOB モントルーオーベルランベルノワ鉄道
GC International AG GCインターナショナルAG
Countess Setsuko 節子・クロソフスカ・ド・ローラ伯爵夫人
Mayor of Grindelwald グリンデルワルト アンドレック村長
Ecole Champittet エコール・シャンピテ

Ministry of Environment 環境省
Japanese Red Cross Society 日本赤十字社
Ito-en 伊藤園
Kyodo Tsushin 共同通信
Tohoku Fukushi University 東北福祉大学

[Listed in no particular order]

Support  Our Kids 